第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | 再生コンクリート

再生コンクリート

座長:坂井吾郎(土木),辻埜真人(建築)
2024年6月27日(木) 13:15 ～ 15:00 第1会場 (小展示室A)

[1182]高炉スラグ微粉末を高含有した骨材の組合せが異なる再生骨材コンクリート Mの実用化に向けた検討

髙橋祐一[1], 新田稔[2], 鈴木好幸[3], 松田信広[4] (1.五洋建設 2.淺沼組 3.安藤・間 4.東京テクノ)
キーワード：高炉スラグ微粉末、再生骨材コンクリート、再生骨材M、再生骨材L、相対吸水率

再生骨材は再資源化の過程で CO2を吸収・固定化している。再生骨材の性能を CO2固定量の観点からみると，付着モルタルが多い再生骨材 Lに優位性があると考えられる。本検討では，高炉セメント C種相当の低炭素コンクリートに再生骨材を使用したコンクリートの実用化に向けて，3シーズンの実機実験を行った。その結果，骨材の組合せにかかわらず，荷卸し時に所要のフレッシュ性状が確保できることを確認した。また，圧縮強度は，再生骨材の品質の影響を受けることを確認した。そのため，あらかじめ相対吸水率等の指標を用いて性能を評価し，再生骨材の品質による影響を考慮した調合設計を行うことが望ましい。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会